



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月13日

上場会社名 株式会社レダックス 上場取引所 東
コード番号 7602 URL <https://www.ledax.co.jp>
代表者 （役職名）取締役兼代表執行役社長 （氏名）長倉 統己
問合せ先責任者 （役職名）経営企画室課長 （氏名）高橋 英知 TEL 03-3239-3185
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第1四半期	4,199	△9.5	△152	—	△167	—	△169	—
2025年3月期第1四半期	4,641	8.0	△83	—	△15	—	△55	—

（注）包括利益 2026年3月期第1四半期 △177百万円（－％） 2025年3月期第1四半期 △17百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△8.20	—
2025年3月期第1四半期	△2.68	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第1四半期	6,787	4,677	65.3
2025年3月期	7,072	4,858	65.2

（参考）自己資本 2026年3月期第1四半期 4,434百万円 2025年3月期 4,608百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—				
2026年3月期（予想）		0.00	—	3.00	3.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	22,000	9.8	350	—	350	—	245	—	11.82

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	24,106,009株	2025年3月期	24,106,009株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	3,376,673株	2025年3月期	3,376,583株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	20,729,381株	2025年3月期1Q	20,729,991株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 新規事業新設にかかる金融投資事業部における第一号案件の完了及び業績への寄与に関する件	3
(3) 当四半期の財政状態の概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年6月30日）におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善と政府の政策効果に支えられ、緩やかな回復が見込まれます。しかし、米国の通商政策が景気を下押しするリスクが高まっており、また、物価上昇の継続が消費者心理を冷え込ませ、個人消費に悪影響を及ぼす可能性もあります。さらに、金融資本市場の変動にも引き続き警戒が必要です。

当社グループが属する自動車業界においては、新車登録台数（軽自動車含む）が約88万台（乗用のみ、貨物・バス等除く）となり、前年同期比6.5%の増加となりました。一方、中古車登録台数（軽自動車含む）は約132万台（乗用のみ、貨物・バス等除く）となり、前年同期比0.6%の微増となりました（出典：一般社団法人日本自動車販売協会連合会、一般社団法人全国軽自動車協会連合会）。

このような環境の中で当社は、2024年9月1日をもって、「株式会社カーチスホールディングス」から「株式会社レダックス」に商号変更いたしました。

商号変更は、当社の親会社である株式会社レダグループホールディングスのグループ会社として、更なる事業セグメントの無限化・多様化・スピード化による成長戦略を明確にすることを目的としており、投資事業、金融事業、不動産事業、M&Aコンサルタント事業を積極的に推進していくことを掲げております。

また、2024年10月より金融投資事業部を設置し人材を投入した上で、投資事業及び金融事業の強化を積極的に推進しております。

当社グループは、「自動車流通事業」として、株式会社カーチス、株式会社アガスタ、株式会社タカトク、新興自動車株式会社、「リースバック関連事業」として、株式会社カーチスロジテックにて形成されております。

当第1四半期連結累計期間においても、株式会社アガスタ、株式会社タカトク、新興自動車株式会社、株式会社カーチスロジテックとも安定的な利益計上を図っております。

株式会社カーチスにつきましては、前年同期比において収益の改善傾向にあり、さらに、組織・運営体制の大幅な見直しを図るとともに在庫車両構成を一新し、「顧客ファースト」のスローガンのもと、お客様の目線に立った「買取直販」を積極的に推進し、多様化するお客様のニーズに対応するため、保証やメンテナンスパッケージなどの付帯サービスの強化により付帯収益の向上を図るとともに、車検や保険などの納車後のアフターサービスを充実させることで「生涯顧客」としてのお客様との継続的な取引を強化してまいります。また、カーチス倶楽部会員を対象としたサービスの拡充に努め、取引の増加を図っております。

新規出店につきましては、引き続き、販売センターを中心とした候補地の情報収集を積極的に進めておりますが、不動産相場や建設費の高騰を踏まえ慎重に判断しております。また既存店舗のスクラップアンドビルドやM&A等による積極的な事業展開により、業績の向上に努めており、その一環として、2024年10月に乗用車の整備を行う新興自動車株式会社をM&Aにより連結子会社化し、輸入車及び国産車のあらゆる自動車関連部品を取り扱う株式会社タカトクと連携してグループの収益力向上を図っております。

商用車関連では、株式会社カーチスロジテックにおいて、カーチス倶楽部会員や法人顧客を対象とした新たな顧客層の開拓により、トラックなど商用車の買取・販売取引を行っております。

海外関連では、株式会社アガスタにおいて、アジア・オセアニア・アフリカ諸国との輸出取引は引き続き活発に推移しており、2024年9月にウガンダで開設したウガンダオフィスでは周辺諸国への事業展開を進めております。

また、株式会社カーチスカピタルマネジメントにおいては、海外での自動車の販売、製造ならびに現地における市場開発のための企画及びコンサルティング業を行うことを目的として活動しており、さらに国内においてもギフト及び生活関連用品の販売・輸出入事業を開始し、新たな取引先の開拓による販路の拡大を進めております。

「リースバック関連事業」につきましては、株式会社カーチスロジテックにおいて、金融機関、大手物流業者との連携及びカーチス倶楽部会員を通じた運送事業者等への事業の認知度向上を進めており、リース及びリースバック事業を中心に、商用車の買取・販売事業、運送会社のM&Aアドバイザー事業、金融業等も手掛ける総合物流商社となることを目指しており、2024年5月には貨物利用運送事業登録を取得し、運送会社の資金繰り等への支援と物流事業の安定化に貢献するための物流管理プラットフォームとして、金融機関や大手物流業者との連携及びカーチス倶楽部会員を通じた運送事業者等への事業の認知度向上に努め、リースバック関連事業及び商用車関連取引の更なる拡大を図り、今後の物流業界の大きな発展に寄与するべく活動しております。

販売費及び一般管理費につきましては、各科目の見直しや業務改善による効率的な経費削減を継続的に行うとともに、売上拡大に向けた人員採用や、知名度向上および来店促進のための広告費投入などの戦略的投資を積極的に行っております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,199百万円（前年同期比9.5%減）となり、営業損失は152百万円（前年同期は営業損失83百万円）、経常損失は167百万円（前年同期は経常損失15百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は169百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失55百万円）となりました。

(2) 新規事業新設にかかる金融投資事業部における第一号案件の完了及び業績への寄与に関する件

当社は、金融投資事業部の第一号案件として、2024年7月31日に取得した株式会社OSMICホールディングス株式(取得価額: 2百万円)を、2025年7月15日付で40百万円にて譲渡いたしました。

本件取引は、株式取得後1年未満(約11.5ヶ月)という短期間において、投資元本に対し20倍(投資収益率1,900%)の譲渡価額を達成し、38百万円の譲渡益を計上するものです。

これにより、第2四半期連結会計期間における連結業績に対し、相応の貢献をなすものと見込まれます。当社といたしましては、引き続き、意欲的な投資事業を推進していく所存です。

(3) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は6,787百万円となり、前連結会計年度末と比べ、285百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少221百万円、売掛金の減少163百万円及び商品の増加74百万円等によるものであります。

負債合計は2,109百万円となり、前連結会計年度末と比べ、104百万円減少いたしました。主な要因は、買掛金の減少104百万円等によるものであります。

純資産は4,677百万円となり、前連結会計年度末と比べ、180百万円減少いたしました。主な要因は、利益剰余金の減少172百万円等によるものであります。この結果、自己資本比率は65.3%(前連結会計年度は65.2%)となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年5月14日の「2025年3月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,654,001	1,432,731
売掛金	1,157,287	993,858
有価証券	2,200	2,200
商品	2,109,561	2,184,463
貯蔵品	1,040	1,121
その他	508,424	561,838
貸倒引当金	△541	△541
流動資産合計	5,431,973	5,175,671
固定資産		
有形固定資産	1,060,091	1,040,504
無形固定資産	172,971	164,749
投資その他の資産		
投資有価証券	62,908	61,962
差入敷金保証金	330,139	330,104
破産更生債権等	16,511	16,481
その他	24,493	24,323
貸倒引当金	△26,486	△26,456
投資その他の資産合計	407,567	406,416
固定資産合計	1,640,630	1,611,670
資産合計	7,072,604	6,787,342

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	646,192	541,778
短期借入金	500,000	500,000
未払金	176,991	161,545
未払法人税等	36,162	11,667
契約負債	268,932	315,734
その他	235,277	231,544
流動負債合計	1,863,554	1,762,271
固定負債		
長期借入金	134,968	134,048
預り保証金	5,517	7,474
リース債務	23,561	16,961
繰延税金負債	33,270	35,008
資産除去債務	153,697	154,047
固定負債合計	351,015	347,540
負債合計	2,214,570	2,109,812
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,820,732	2,820,732
資本剰余金	851,334	851,334
利益剰余金	2,000,152	1,827,501
自己株式	△1,076,602	△1,076,613
株主資本合計	4,595,616	4,422,954
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	12,915	11,476
その他の包括利益累計額合計	12,915	11,476
非支配株主持分	249,501	243,098
純資産合計	4,858,033	4,677,530
負債純資産合計	7,072,604	6,787,342

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	4,641,475	4,199,392
売上原価	3,965,387	3,577,672
売上総利益	676,087	621,720
販売費及び一般管理費	759,831	774,508
営業損失(△)	△83,743	△152,787
営業外収益		
受取利息	11	17
受取配当金	1,653	616
受取保証料	194	339
為替差益	66,729	—
受取保険金	—	358
持分法による投資利益	—	492
雑収入	3,707	8,758
営業外収益合計	72,295	10,582
営業外費用		
支払利息	464	1,762
支払保証料	396	596
為替差損	—	21,114
持分法による投資損失	189	—
雑損失	2,949	2,118
営業外費用合計	3,998	25,593
経常損失(△)	△15,447	△167,798
特別利益		
固定資産売却益	6,223	624
特別利益合計	6,223	624
特別損失		
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△9,223	△167,174
法人税、住民税及び事業税	9,144	9,106
法人税等合計	9,144	9,106
四半期純損失(△)	△18,368	△176,280
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	37,259	△6,403
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△55,627	△169,877

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純損失(△)	△18,368	△176,280
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,050	△1,438
その他の包括利益合計	1,050	△1,438
四半期包括利益	△17,317	△177,719
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△54,577	△171,316
非支配株主に係る四半期包括利益	37,259	△6,403

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		四半期 連結損益計算書 計上額
	自動車流通事業	リースバック 関連事業	
売上高			
外部顧客への売上高	4,611,726	29,749	4,641,475
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	4,611,726	29,749	4,641,475
セグメント利益又は損失(△)	△91,334	7,590	△83,743

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と一致しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		四半期 連結損益計算書 計上額
	自動車流通事業	リースバック 関連事業	
売上高			
外部顧客への売上高	4,142,320	57,072	4,199,392
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	4,142,320	57,072	4,199,392
セグメント利益又は損失(△)	△155,760	2,972	△152,787

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	35,440千円	30,995千円

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年8月13日

株式会社レダックス

取締役会 御中

海南監査法人

東京事務所

指定社員

公認会計士

仁戸田 学

業務執行社員

指定社員

公認会計士

溝口 俊一

業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社レダックスの2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2025年4月1日から2025年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(四半期決算短信開示会社)が別途保管しております。
2. XBRL データ及びHTML データは期中レビューの対象には含まれていません。